

ミズワラビ

ホウライシダ科

ミズワラビは、水田や浅い池や沼にはえるシダ植物です。春に芽生え、成長して、稲刈り後の田んぼによく目立ちます。

かつて、水田によく見られる植物でしたが、耕地整理、土地改良、除草剤の使用などによって生育する環境が減って個体数も減り、今はとても少なくなっています。



ミズワラビの持ちよう

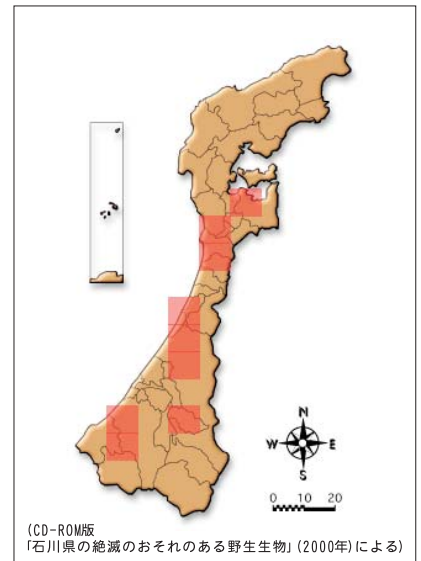
ミズワラビは生育している水環境によって葉の形を大きく変化させます。葉が水中にあるときは、葉の幅は広く、葉が水面よりでると細かくなります。さらに完全に空中に出ってしまうと葉は棒状になります。

調べやすい時期

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

県内の分布

現在、加賀から中能登にかけて広く分布していますが、奥能登にも少ないですが分布しています。



見つけやすい場所

8月頃の水田や稲刈り後の水田や畦、浅いため池、湿った畦などにも生えます。

見分け方のポイント

栄養葉と孢子葉の形がユニークなのですぐ分ります。日本には1種だけしか同じ属にはありません。

孢子葉



栄養葉